

このコーナーでは、静岡の企業が有する隠れた地域産業史的な建造物や文化財などを掘り起こし、紹介します。



最後の将軍・徳川慶喜公の屋敷から
静岡の迎賓館へ受け継がれた庭園

最後の将軍・徳川慶喜公ゆかりの庭

「浮月楼」の敷地は、徳川幕府の代官屋敷があった場所。江戸城を無血開城した慶喜公は、慶応4（1868）年7月23日、水戸から海路、駿府（静岡）に移り、宝台院に蟄居されました。これに伴い、旧幕臣約1万4千人が駿府に移住。欧州から帰国した渋沢栄一氏も、慶喜公に会うために駿府を訪れ、代官屋敷に、日本で最初の株式会社「商法会所」を設立しました。

明治2年10月、栄一氏は、謹慎の明けた慶喜公に屋敷を渡しました。このとき、いまに伝わる池泉回遊式庭園が作られ、慶喜公は20年間、住まわれしました。

明治21年、慶喜公が東海道鉄道開通の喧騒を避けて、西草深の新邸に転居されると、静岡市は名蹟保存を条件に敷地を有力者に払い下げ、明治25（1902）年、「浮月楼」が開業。以来、静岡の迎賓館として愛されてきました。

昭和32（1957）年、紺屋町で旅館を営んでいた久保田志づ氏が、経営難に陥った浮月楼を東京の大手資本が買収して敷地を分割する計画が進んでいることを偶然知り、「この庭は後世に残さなければならぬ」という強い思いを抱いて、買い取り、経営を引き継ぎました。

由緒ある庭園は、婚礼の会場としてご利用いただけるほか、レストランやホテルの客室からも眺めることができます。

株式会社 浮月
静岡市葵区紺屋町11-1
TEL.054-252-0131
<http://www.fugetsuro.co.jp/>



明治時代の浮月楼



慶喜公の書「万事、花の下に酔うに似なく、百年、夢の中に狂うに似たり」



徳川慶喜公